令和２年度第１回多文化共生を進める団体交流会　議事概要

日時：令和2年12月16日（水）

　　　午後7時～8時30分

場所：名古屋国際センター第一会議室

参加者数：16団体、18名

■ディスカッションテーマ①

団体が学生に求めるものは何か、学生が今多文化共生のどんなことに興味を持っているのか。

～団体の意見～

・コロナ禍でも感染予防に努め、対面で活動している団体は多い。活動が少ないことをコロナのせいにせず、学生にはもっと積極的に情報収集をして活動へ参加してほしい。

・多文化共生に興味を持ち学んでいる文系学部の学生に限らず、理系学部の学生にも活動参加してほしい。

・名市大の教室を団体のイベントの開催場所とするなど、もっと大学と協同し多文化共生を進めたい。

・団体としても、もっと多くの学生と交流したいが、どこへ行けば学生と繋がることができるのかわからない。

・時期によってはインターン生を募集しているので、ぜひ参加して実際の現場を知ってほしい。

・名古屋市立大学人文社会学部山本ゼミが行った“やさしい日本語”の取り組みはとても良い。引き続き活動をしてほしい。→[取り組み動画はこちら](https://www.youtube.com/watch?v=DgpuDGvT2uc)

～学生の意見～

・多文化共生に興味を持っている学生にはどうしても文系の学生が多い。どうしたら理系の学生にも活動に興味を持ってもらえるのだろうか。ゼミの規模を超えて、サークル・学生団体などの団体で多文化共生の実現に向けて活動できると良いかもしれない。

・インターンシップ活動を含め、多文化共生に関する活動について、授業の単位化をすれば、より多くの学生が参加するきっかけになるのではないか。

・現状では、多文化共生の推進において他大学の学生との繋がりや交流はほとんどない。横のつながりという面では、市や県などが主催するイベント等に頼ってしまっている。

■ディスカッションテーマ②

学生と団体がどのような形で関わることができるのか。

～団体の意見～

・“やさしい日本語”の動画編集など、学生が多文化共生と関わり、興味を持つきっかけには様々な切り口があると思う。

・もちつきを介しての交流等、団体の活動は多岐に渡る。外国人との生の交流を通し、多文化共生を肌で感じてほしい。

・座学の学術的観点だけにとらわれず、地域における防災など、様々な場面で外国人と関わる機会はある。絶えずアンテナを張ることが大切。

・学生が積極的に情報収集をし、活動へ参加することも大切だが、大学としても学生らをフォローできるような体制を整えるべき。

・団体の活動者は日々高齢化しているため、ウェブ編集などを得意とする学生が活動参加してくれると助かる。

・外国人を受け入れている企業を、ぜひ訪問見学しに来てほしい。

～学生の意見～

・団体の活動を、より多くの学生に知ってもらうためにどうしたら良いのかゼミへ持ち帰って検討したい。ＳＮＳを利用するのも良いが、大学のポータルで全学生に等しく発信すると良いのではないか。

・大学の授業だけでは、表面的で当事者意識が生まれにくいと感じていたが、今回の交流会と通し、実際の現場に参加することの必要性を改めて感じた。